

新任助手紹介



歯科補綴学第二講座

加藤 拓

この度、2月より補綴学第二講座の助手を務めさせていただくことになりました。

出身は新潟県上越市です。同じ新潟県でも新潟市より、水がうまい、米がうまい、雪が多い、といったところでしょうか（つまりイナカですね、でも方言は新潟市より少ないのですよ）。

高校時代から、“動体視力は上がるが目は悪くなる”ようなことをするのが好きで、今でも動体視力だけは人並み以上でしょう。

歯学部を卒業する時に、“インプラントをやってみたいな”、“歯科治療を総合的にやるなら補綴科かな”、“何か研究者的な見方ができた方が、これから多分一生歯科医師として働いてゆく中で楽しいかも知れないな”という漠然とした考えで第二補綴学講座に大学院生として入局し、はやいもので7年になりました。学部生の頃は、教官の先生方は何でもよく知っていて、何でもできるというイメージがありましたが、今の自分がその様なイメージを与えられるかという？今度学生に聞いてみましょう。

大学院時代は口腔細菌学講座にお世話になり、レーザーを使って研究をしていました。本格的に臨床を始めてまだ日が浅いため日々の診療に追われる毎日ですが、大学院時代に学んだことを頭に置きながら自己研鑽を忘れないように、またそれが患者さんに還元できるようにしたいと思います。よろしく願いいたします。

【略歴】

昭和44年 新潟県生まれ

昭和63年 新潟県立高田高校卒業
昭和63年 新潟大学歯学部入学
平成6年 同上卒業
平成6年 新潟大学大学院歯学研究科入学（歯科補綴学第二講座）
平成10年 同上修了
平成10年 新潟大学歯学部附属病院医員（第二補綴科）
平成12年 新潟大学歯学部附属病院助手（第二補綴科）



歯科保存学第一講座

吉羽 永子

約4年半ぶりに大学の職員として復職することになりました。その間、1年ほど研究のためフランスに留学し、その後日本学術振興会特別研究員として仕事を続けてまいりました。

その1—研究。歯牙における細胞外基質、及びある細胞外基質とたまたまコンセンサスがあったことに端を発した MHC classII 抗原提示細胞に関することをテーマとしてやっております。フランスではストラスブールという所に居りました。仕事が忙しく、この街から出ることはほとんどありませんでしたが、フランス人の国内観光地 No.1 だけあって、我々外国人(主人共々)にとっては、ここで生活しているだけで十分満足でした。入局以来、研究は第一解剖でお世話になっています。本当に仕事のしやすい教室で、スタッフの方々の研究に対する熱意と自信により生まれる謙虚な雰囲気のためと感じております。ありがとうございます。

その2—臨床。単純な治療のように思われがちで

すが、症例から学ぶことまだまだ多いです。

その3—教育。4年生の歯内療法実習のチーフと6年生の総診ライターにでています。学生さんをほめながらやっていこうと思っていますが、なかなかその機会に巡り合えません。

番外編—学生時代は陸上競技部に属し、何より走ることが好きでした。今はもっぱら、2歳になる息子に心身共に鍛え直されております。こんな感じで、日々奮闘中です。どうぞ宜しくお願いいたします。

【略歴】

昭和39年4月 秋田県生まれ
昭和58年3月 秋田県立横手高等学校卒業
昭和58年4月 新潟大学歯学部入学
平成元年3月 同上卒業
平成元年4月 新潟大学歯学部研究生（歯科保存学第一講座）
平成元年7月 新潟大学歯学部附属病院医員（歯科保存学第一講座）
平成7年11月 フランス留学
平成9年4月 日本学術振興会特別研究員(PD)
平成12年2月 同上退職
平成12年2月 新潟大学歯学部助手（歯科保存学第一講座）



歯科保存学第二講座

宮崎 朗

歯科保存学第二講座の宮崎 朗です。平成5年本学卒業後、まる7年が過ぎました。学生時代あまり勉強熱心でなかったこともあり、もう少しだけ勉強してみたいというか、した方がいいのではないかという気持ちと、臨床は今後いやという程できるだろうと考えから、大学院に進んだような気がします。大学院時代は、歯周炎罹患患者の歯肉溝滲出液中多型核白血球の貪食能とFcγレセプターの関連についての研究に従事させていただきました。諸先生方のサポートもあり、研究を通して論理的な考え方の大切さを学び、また、学

会・講演会等で学外の先生方に刺激を与えていただく機会に恵まれ、貴重な経験をさせていただきました。

現在は、主に保存科外来での診療や、総合診療室での学生教育に携わっています。診療面では、大学院時代が臨床を行う時間が少なかったこともあり、本格的に歯周病治療を始めてようやく4年目ですので、自分の未熟さと自己研鑽の必要性を痛感する毎日です。学生教育では、厳しい、恐いライターと思われているようですが、学生自身が考え、判断することを通して、患者さんに対する真摯な姿勢、歯科医療の大切さ、面白さといったものを伝えていきたいと思います。

いろいろと至らない点もありますが、今後ともよろしくお願いいたします。

【略歴】

昭和42年9月 長野県生まれ
昭和61年3月 長野県立屋代高等学校卒業
昭和62年4月 新潟大学歯学部入学
平成5年3月 同上卒業
平成5年4月 新潟大学大学院歯学研究科入学（歯科保存学第二講座）
平成9年3月 同上修了
平成9年4月 新潟大学歯学部附属病院医員（歯科保存学第二講座）
平成12年4月 新潟大学歯学部助手（歯科保存学第二講座）



口腔外科学第二講座

藤田 一

口腔外科学第二講座の藤田です。早いもので卒業後10年目を迎えましたが、当初は口腔外科医を目指していた訳ではありませんでした。新潟大学歯学部卒業後に進んだのは、医学部法医学講座の大学院です。そこで同講座山内教授から歯科医師として臨床経験をするようにと指示を受け、それならば興味があった口腔外科を勉強したいと大橋教授（現名誉教授）にお願ひし、法医の大学院生で

ありながら二口外の見学生になったのが始まりです。見学生と言っても別に見ていただけではありません。99%二口外の医局員として病棟・外来・麻酔を2年間研修し、臨床の楽しさ、やりがいも一緒に教えていただきました。

その後法医に戻り、研究が始まったのはすでに大学院3年生のことです。残された時間はあと2年で、STR(DNA)マーカーによる個人識別をテーマとして急ピッチで実験を行い、最後の1~2か月は毎日のように研究室に泊まりがけで、何とか論文を仕上げることができました。大学院修了後は生まれ育った新潟を離れ、弘前大学医学部法医学講座に2年間在職しましたが、そこでも引き続きSTRを応用した研究を行いました。

この間、法医実務として通算400体近い司法・行政解剖に携わり、特に白骨や溺死等による高度腐敗、焼死による顔面焼損などの事例では、歯科的所見による個人識別をさせていただきました。その他にも東京都監察医務院へ研修に行かせていただいたり、名古屋空港での中華航空機事故(1994年4月)の際には、身元確認作業に参加させていただくなど貴重な経験を得ることができました。

法医で暮らした4年間、歯科医師としてそれなりに社会的貢献を果たしているものと満足してはいたのですが、口腔外科臨床への未練を忘れることはできず、大橋教授の退官1年前に、戻るならば今しかないと考え、再び2口外に戻ってまいりました。

現在それから4年目を迎えましたが、法医という別な視点から人の生死、医療を見てきた経験を生かし、ちょっと変わった口腔外科医として、皆さんのお役に立てたならば幸いと思っております。

【略歴】

昭和41年11月 新潟市生まれ
昭和60年3月 新潟県立新潟高等学校卒業
平成3年3月 新潟大学歯学部卒業
平成7年3月 新潟大学大学院医学研究科社会医学系専攻修了(法医学)
平成7年4月 弘前大学医学部助手(法医学講座)
平成9年3月 同上退職
平成9年4月 新潟大学大学院歯学研究科研究生(口腔外科学第二)

平成9年10月 新潟大学歯学部附属病院医員(第二口腔外科)
平成12年4月 新潟大学歯学部助手(口腔外科学第二講座)



小児歯科学講座

佐野 富子

小児歯科の佐野富子です。とても古風な名前のため、補綴科外来などでは時々お目にかかりますが、同年代では同名の方に遭遇したことがありません。この間、外来で泣いている患児にむかって「先生はとみこ先生っていうお名前なのよ。おばあちゃんと同じ名前だから大丈夫でしょう?」と、やさしく笑顔で言っている母親の言葉を聞いたとき、ちょっぴり複雑な気持ちになりました。なぜか一族には富と名のつく人がたくさんおり、富蔵、富男、富、富子など計5名にのぼります。

出身はニットのまち見附市です。見附と聞くと、「あー、何にもない所だよねー。」と皆さん口を揃えて言います。どうやら高速から見渡す果てしない(?)地平線の影響が大きいようですが、実際はもう少し何かあるところだと思っています。しかし、自然豊かであることは間違いなく、幼少時にはペットとしてヤギを飼っていました。犬の散歩と同時にヤギの散歩が私の日課でした。当時近隣でもヤギはめずらしく、ほとんど全ての人が振り返って見ていくため、とても恥ずかしい思いをしたものでした。高速を使えば実家まで40分程度なので通勤可能なのですが、大学入学以来一人暮らしをしており、早11年目となりました。今はいろいろなことを学び、日々考えさせられる毎日です。今後少しでも周囲の方々の力になれるよう頑張りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

【略歴】

昭和47年3月 新潟県生まれ
平成2年3月 新潟県立長岡高等学校卒業

平成2年4月 新潟大学歯学部入学
 平成8年3月 同上卒業
 平成8年4月 新潟大学歯学部附属病院医員(小児歯科学講座)
 平成12年4月 新潟大学歯学部助手(小児歯科学講座)



附属病院言語治療室

寺尾 恵美子

はじめまして、寺尾恵美子と申します。
 言語治療室で技能補佐員として1年間勤務し、この4月から歯学部附属病院助手として採用していただきました。

大学時代はどこかに行くのが好きでした。

そのころ聖徳太子がマイダーリンだったので、京都・奈良の寺に行き、つやつやの手すりをなでたり、読経をしているお坊さんの背中に胸を熱くしたりしていました。ダーリンとは関係ありませんが、インドやチュニジアにもいきました。インドでゾウに乗り、チュニジアではダンスを教してもらいましたが、あれは大和撫子には無理です。一月月くらいいたのですが、断食の時期にあたり、旅行者といえど視線が痛く外で食べるのは我慢していたのに、ある日の真昼、シャッターの半分閉まった食べ物屋で現地のおじさん達が牛馬のごとく飲み食いしているのを目撃しました。ちょうどおなががすいている時だったので一番心に残る風景となりました。

現在はそんな時間もお金もないので、演劇を中心にライブに行くことを楽しみにしています。今年は宝塚(観劇)デビューを予定し、ツカスターのニックネームを勉強中です。

根っからの文系人間なので、理系の考え方に切り替えるのが難しく、毎日悪戦苦闘しています。

今後ともよろしく願いいたします。

【略歴】

昭和47年12月 新潟県生まれ

平成3年3月 私立北越高等学校卒業
 平成3年4月 金沢女子大学文学部入学
 平成7年3月 同上卒業
 平成7年4月 上越教育大学大学院学校教育研究科入学
 平成9年3月 同上修了
 平成9年4月 三条市役所幼児ことばの教室指導員
 平成11年4月 新潟大学歯学部附属病院言語治療室技能補佐員
 平成12年4月 新潟大学歯学部附属病院助手



歯科保存学第一講座

富田 文仁

歯科保存学第一講座の富田文仁です。この度、7月付けで助手を務めさせて頂くことになりました。

出身は富山県黒部市です。出身を聞かれて黒部市と答えると黒部峡谷や黒部ダム(日本一の高さを誇るダムで先日、織田裕二さん主演の映画ホワイトアウトの撮影が行われたようです。)を連想するらしく、「随分、険しいところから来たのですね」とよくいわれます。実際は黒部市は黒部川の下流にできた市で黒部川の上流にある黒部峡谷や黒部ダムは黒部市ではなく、僕は黒部峡谷にも黒部ダムにも行ったことがありません。黒部市は日本海の海岸沿いにあるため、気候は新潟市とさほど変わらない所です。

大学卒業後は、一保存に入局して現在6年目になります。その間の1年半を佐渡に長期出張に行っていました。学生時代は野球部に所属しており、今でも野球をしたいと思っているのですが、大学卒業後は、野球をする機会もなく、もっぱら、観るだけとなっています。

現在、好きなものは、野球は松坂(西部ライオンズ)、サッカーは柳沢(鹿島アントラーズ)、家電はソニー、車はホンダです。

最後に、国立大学に変革の波が押し寄せていま

す。新潟大学歯学部も難しい時期にあると思われる。微力ながら、力添えができればと考えています。今後とも宜しくお願い致します。

【略歴】

昭和43年11月 富山県生まれ
昭和62年3月 富山県魚津高校卒業
昭和63年4月 新潟大学歯学部入学
平成7年3月 同上卒業
平成7年4月 新潟大学歯学部附属病院研修医
(歯科保存学第一講座)
平成8年4月 新潟大学歯学部附属病院医員 (歯
科保存学第一講座)
平成12年7月 新潟大学歯学部助手 (歯科保存学
第一講座)



歯科保存学第一講座

田村 貴彦

この度、歯科保存学第一講座にて7月より助手を勤めさせていただくことになりました田村貴彦(たむらたかひこ)です。大学院生として新潟に来てから早いもので5年目になりました。

生まれは紀ノ川が流れ、高野山の麓でもある和歌山県かつらぎ町、育ちは大阪府南部の河内長野、狭山、和泉と根っからの関西人(阪神ファン)です。祖父と叔父が歯科医で、小さい頃から田舎に帰る度にアルジネートの匂いとタービンの音を聞こえていた事や、祖父が技工室で電気エンジン(ベルト駆動式)で義歯の研磨をしていたのを思い出します。そのせいか躊躇なく歯科医の道を選び、学生時代は勉学の傍ら前半は自転車競技(主にロード)、後半は良い造りの日本酒にはまっていました(今も色々と飲んでいきます)。

大学院での研究は口腔細菌学講座にてさせていただきましたが、研究を通じて実証するための論理的な物事の考え方やそれに付随する様々な知識の習得、そしてとにかく行動する、ということを学ばさせていただき、自身に大きな糧となりました。

た。

大学院修了後の現在は臨床にウエイトをおいて保存科外来にて悪戦苦闘しつつ診療を行っています。これからは臨床は勿論、教育という、全ての面において非常に高い知識と技術が要求され、また研究においても更なる展開が必要とされるので、それぞれの分野において日々、努めていきたいと思っております。宜しくお願いいたします。

【略歴】

昭和47年2月 和歌山県生まれ
平成2年3月 大阪府桃山学院高校卒業
平成2年4月 松本歯科大学入学
平成8年3月 同上卒業
平成8年4月 新潟大学大学院歯学研究科入学
(歯科保存学第一講座)
平成12年3月 同上修了
平成12年7月 新潟大学歯学部助手 (歯科保存学
第一講座)



附属病院歯科麻酔科

田中 裕

歯科麻酔科の田中 裕と申します。簡単ですが自己紹介をさせていただきます。

私は「信州の鎌倉」といわれる、長野県上田市の出身です。高校までこの田舎町でのんびりと過ごし、18歳の時に新潟にやってきました。新潟に来た初日にいきなり、雷、吹雪、あられ、そしてその後の大雨と、とんでもない天気にもまわれ「こんなにえらい天気の悪い所で生活なんかできるのだろうか?」とかなり悪いイメージを持ち、当初の予定では新潟に長居をするつもりはなかったのですが、長野では絶対に味わえない新鮮な魚、そしておいしいお米とお酒の虜になってしまい、いつの間にか新潟の生活も14年目に入り、すっかり新潟市民になりました。

また、私は現在歯科麻酔科で仕事をさせていただいておりますが、最初は「点滴がしてみたい」という、それだけの動機から入局を決めてしま

ました。しかし、とても奥が深く、またとても忙しい診療科であることを入局した後になってやっと気づき、周りの先生方に日々ご迷惑をかけながらなんとか入局8年目を迎えました。

こんな私ですが、現在は手術室での麻酔管理、外来でのペインクリニックと歯科治療時の全身管理をする一方で、4年前から医学部心身医学外来で勉強させてもらいながら、今年4月から開設した歯科心身医学外来で診療と研究を行わせてもらっています。まだまだ勉強不足の私ですが、これからもどうぞ宜敷御願いたします。

【略歴】

昭和44年1月 長野県生まれ
昭和62年3月 長野県上田高等学校卒業
昭和62年4月 新潟大学歯学部入学
平成5年3月 同上卒業
平成5年4月 新潟大学歯学部研究生（口腔外科学第二講座）
平成5年6月 新潟大学歯学部附属病院医員（歯科麻酔科）
平成12年7月 新潟大学歯学部助手（歯科麻酔科）

そんな日々で心安らぐのは、CT室への行き帰りに病棟の入院患者さんと交わすたわいもない言葉です。先日、ある患者さんが私のことを“CT室のひと”と呼んでいるのを耳にしました。何だかどこかのCMで聞いたような、とおかしくなり、また、うれしくなりました。自分の居場所があるということほどすばらしいことはない、と思うのです。その場所でかけがえのない人になれるよう努力しなければと思っています。

未熟ではありますが、精一杯努めます。今後とも、よろしくご指導くださいますようお願いいたします。

【略歴】

昭和36年3月2日生まれ
昭和55年3月 新潟県立新潟中央高等学校卒業
平成4年4月 新潟大学歯学部入学
平成10年3月 同上卒業
平成10年6月 新潟大学歯学部附属病院研修医（口腔外科第二）
平成12年8月 新潟大学歯学部附属病院助手（歯科放射線科）



歯科放射線学講座

田 中 礼

CT室の鍵を開け、現像液のつんとした匂いが残る室内で、手探りで電気をつけ、エアコンのスイッチをいれる。CTの電源をいれ、管球のウォーミングアップを開始。毎朝はこれを始業に始まり、ひと月以上が過ぎました。歯科放射線科の仕事は、見ると聞くでは大違い。撮影の後、もっとも大事な診断業務に辿りつくまでのプロセスは長く、ほとんど一日中モニターの前かフィルムの前に座っている、というような感じの毎日はなかなか辛いものがあります。何と言っても大変なのが、コンピューターおんちの私の前に立ちはだかる、気難しそうな数々の機械と格闘しなければならないこと。後から後から、すごい技を見せられて、気弱になってしまう今日この頃ではあります。